兵庫県出土の黒曜石製石器

藤田 淳

1 はじめに

黒く輝く天然ガラスである黒曜石は日本の石器時代において最も多用された石材の一つであり、北海道や信州に大規模な原産地が存在する。二上山や金山などのサヌカイトが広く使用された瀬戸内沿岸部を中心とする西南日本では、隠岐や姫島、腰岳などの原産地が知られるものの、その利用は地域的な偏りが大きい。

兵庫県でも古くから黒曜石製石器の発見は注目を集め、今里幾次は、加古川市の南大塚(96)で採集した湧別技法によるスキー状スポールを含む播磨の 4 例の資料をもとに、その原産地の分布や原石の特徴から移動ルートを推定した $^{(1)}$ 。

昭和50年代頃には、各市町史でもしばしば取り上げられ、地域的な集成表が掲載された⁽²⁾。さらに、石材の原産地分析も藁科哲男・東村武信によって進められ、その成果が公表された⁽³⁾。特に但馬、播磨で数多く発見されており、産地同定ではその多くが久見産と同定されている。

その後、県内各地で発掘調査が進行し、資料の蓄積も進んだ。2009年には関西・中四国・九州の縄文研究会で「環瀬戸内地域の打製石器石材の利用」をテーマとした合同大会が開催され、黒曜石やサヌカイトなど西日本における縄文時代の石材利用に関する議論が交わされた。この時、久保勝正が集成した遺跡は73にのぼる⁽⁴⁾。さらに上峯篤史は近畿地方の縄文時代の石器研究の上での黒曜石製石器の重要性を強調し、蛍光X線による産地同定も精力的に行っている⁽⁵⁾。

私も兵庫県教育委員会に採用された直後に担当した七日市遺跡で、旧石器時代の久見産黒曜石の小さな剥片1点に巡り合ったことを機に、資料集めなどをしていたものの、長らく放置したままであった。 近年の研究に触発され、これを機に改めて集成を試みることとした。

2 旧石器時代

旧石器時代に属すると考えられる資料は、19遺跡で80点以上確認できる。ほとんどの遺跡が1点か5点までと点数はごく少ないが、細石刃文化期の金棒池遺跡(103)だけは46点と突出していることが特筆される。

地域では但馬3遺跡、丹波1遺跡、播磨15遺跡で、摂津と淡路では未確認である。播磨地域に集中しているのは、旧石器時代遺跡の分布状況を反映していると考えられる。

器種別では台形様石器、ナイフ形石器、削器、石核、細石刃核、スキー状スポール、細石刃、剥片が見られ、七日市遺跡のように後期旧石器時代前半期の資料も存在することから、後期旧石器時代全般にわたる資料を含むと考えられる。

台形様石器は標高約1,000mの高地にある畑ヶ平旧石器遺跡(2)で3点確認されている。表採資料ではあるが、AT下位の後期旧石器時代前半期でも古期に位置付けられよう。

ナイフ形石器は5遺跡で各1点が確認できる。西谷遺跡(31)、長尾・沖田遺跡(62)、大山神社遺跡(72)、太島東部遺跡(73)、手柄山北丘遺跡(75)である。長尾・沖田遺跡のナイフ形石器は石刃状の剥片を素材とし、先端側を基部とする。調整剥離は一側縁と基部に施し、整った形状に仕上げている。AT降灰前後に位置づけられる資料であろう。西谷遺跡のナイフ形石器は縦長剥片の打面側を基部とし、部分的な調整剥離を加えている。大山神社遺跡も縦長剥片素材で、調整剥離は一側縁と基部に施す。

削器は成井遺跡(89)と山之上遺跡(98)で確認できるが、実測図を見る限り平坦な刃部調整剥離が連続する典型的な削器ではないようである。

石核は七日市遺跡 (117) でのみ確認できる。剥片素材で最大長4cmほどの小さな石核である。注目すべきはその原産地同定結果で、富山県高岡市の二上山産と同定された。この産地と同定された例は初めてで、また、1cmを超える原石が発見されていないため、分析者の藁科はこの黒曜石の産地については慎重な姿勢をみせている。

細石刃核あるいは関連資料の出土している遺跡は、南大塚 (96)、日岡山遺跡 (97) と金棒池遺跡 (103) の3遺跡でいずれも播磨にある。先述の南大塚のスキー状スポールは、東北日本の細石刃文化の集団と

の関連を示唆するものである。これに対し、日岡山遺跡と金棒池遺跡の細石刃核は西南日本に広く分布する円錐形、角柱形細石刃核で、金棒池遺跡では黒曜石製の細石刃に加え、サヌカイトやチャートの細石刃核、細石刃も発見されている。

剥片は、八木西宮遺跡(36)、ごさん谷池遺跡(85)、七日市遺跡(117)など12遺跡で40点以上ある。石片あるいは石屑とのみ報告され、実測図などが提示されない場合も多く、詳細は不明である。八木西宮遺跡の石刃状剥片は5cm以上あり、両側片がほぼ平行する。本遺跡では泥岩製で長さ10cmを超える石刃状剥片も採集されている。七日市遺跡の剥片は長さ3cm以下の小剥片で、縦長剥片あるいは寸詰まりの縦長剥片が主体となるようである。これらの資料は採集資料が多く時期を決めがたいものが多いが、七日市遺跡は後期旧石器時代初頭に遡る。

3 縄文時代

縄文時代になると黒曜石製石器が出土する遺跡は一気に増え、99遺跡で約660点を数える。

分布をみると但馬が53遺跡、播磨が34遺跡と、この二つで9割近くを占める。特に但馬の養父市などでは縄文時代の遺跡を掘ると黒曜石製石器がごく普通に出土するという。

但馬では鉢伏高原遺跡(17~20)や杉ヶ沢遺跡(37~51)など高所に立地する遺跡に集中する。時期では早期~中期までが大半で、後期以降に限定される遺跡は岡畑遺跡(3)や小森岡遺跡(11)など数少ない。但馬北西部の香美町や養父市に多く、北東部~南部には少ない。朝来市では未発見である。

播磨では但馬のような集中は顕著ではなく、佐用町がやや多いものの、ほぼ全域に分布する。草創期~前期の遺跡は宍粟市や佐用町にややまとまる状況がみられ、岡山県での確認例がわずかであることから⁶⁶、但馬との南北ルートが想定できそうである。これに対して中播磨~東播磨では台地や平地に立地する遺跡に広く黒曜石製石器がみられ、市川や加古川など大きな河川沿いに内陸部まで広がる。

特筆される資料として、名畑遺跡(58)の有舌尖頭器がある。県内では唯一の資料であり、先端は欠損するが、復元長は11~12cmと推定されている。その製作時には大量の剥片やチップが生じるはずであるが、県内での出土状況を見る限り、こうした大型石器の製作が行われた痕跡は認めがたい。

摂津では遺跡数は少ないものの、六甲山南麓の芦屋市に集中する。播磨とは印南野台地などの台地部 を経て、六甲山系を経由した東西ルートを想定したい。

製品では石鏃、石槍、石匙、削器、二次加工ある剥片 (RF)、楔形石器がある。石鏃が最も多く32遺跡で確認されている。縄文時代の石器を代表する狩猟具であり、小さな剥片からでも製作できることから、それぞれの遺跡で製作することは十分可能であったろう。石匙は縦型で長さ約4.5cmある。製品として搬入されたと考えたい。その他の製品でも小型のものであれば遺跡内での製作は十分可能であろう。

石核 (原石) が但馬と播磨の 6 遺跡から出土し、小規模ながら剥片生産を伴う石器製作が行われていたことがうかがえる。このうち新宮宮内遺跡 (67) の石核は 9 cm×6 cmあり、出土品では県内最大である。この大きさの石核であれば、小型石鏃を製作するための剥片ならばまだ十分に剥離可能である。

剥片等は堂ノ上遺跡(14)で100点近く、杉ヶ沢遺跡、鉢高原遺跡でも数十点出土している地点があり、 但馬では剥片生産段階から行っていたと考えられる。播磨では本位田遺跡(60・61)を除くと1遺跡数 点である。大きさや形状は不明だが、小型石鏃なら小片からでも製作可能であろう。

4 弥生時代

弥生時代の資料は2遺跡のみである。一つは弥生時代中期とされる本位田遺跡(60)である。藁科・東村によって1点の黒曜石が加茂産と報告されているのみで⁽⁷⁾、資料の詳細は不明である。本位田遺跡の調査は中国自動車道建設に伴って兵庫県教育委員会が1973年に行った本発掘が最も古く⁽⁸⁾、後晩期の縄文土器片が出土している。縄文土器は1988年以降の佐用郡教育委員会(現佐用町教育委員会)の調査でも出土していることから、分析資料は弥生時代の黒曜石とは断定しがたいと思われる。

桂ヶ谷遺跡(116)は弥生時代中期~終末期及び古墳時代後期の集落遺跡で、黒曜石製の使用痕ある剥片が弥生時代中期の住居跡から出土している。縄文土器は出土しておらず、遺跡から出土する石鏃にも縄文時代に特徴的な形態は見当たらない。弥生時代中期の石器と判断する資料であろうが、隣接するずえが谷遺跡で縄文時代と考えられる落とし穴が検出されていることや、縄文時代後期以降は県内の黒曜石製石器が激減することを考えると、本資料を積極的に弥生時代とするのは躊躇される。

5 原産地分析

蛍光X線分析を用いた原産地分析は上述の上峯による精力的な取組みにより、県内では養父市内の遺跡を中心に事例が飛躍的に増加し、それ以前の約10倍、300点近くにもなっている。近畿地方では隠岐を中心に、九州、信州の他、神津島や北海道の黒曜石までももたらされていることが明らかにされているが、兵庫県では隠岐と姫島以外は未確認である。

兵庫県での隠岐(久見)産黒曜石の利用は後期旧石器時代初頭の七日市遺跡まで遡り、縄文時代をとおして利用される。姫島産は前期の西野遺跡(26)1点、晩期の宇治川南遺跡(107)3点、時期不明の吉田住吉山遺跡(100)1点である。姫島産は乳白色あるいは灰色を呈し、一般的な漆黒あるいは半透明の黒曜石とは異なるため、肉眼でも判断しやすい。後期の東南遺跡(71)や中期~晩期の辻井遺跡(74)、後晩期の安川・如来田遺跡(65)は姫島産⁽⁹⁾と推定されており、縄文時代後半期を中心に散発的にもたらされるのであろう。このほか、松本正信は北条逆池(82)、岡遺跡(90)、平荘逆池(94)、山之上遺跡(98)の黒曜石を「乳灰色半濁」と報告しており⁽¹⁰⁾、これらも姫島産の可能性がある。

6 兵庫県出土の黒曜石石器をめぐる諸問題

兵庫県内で黒曜石製石器が出土する遺跡は但馬・播磨地域を中心に119遺跡を数え、時代では後期旧石器時代の早い段階から認められ、細石刃文化期まで続く。さらに縄文時代早期以降は量も増え、縄文時代中期くらいまでがピークで、後晩期になると著しく減少する。大部分は隠岐産のもので、後半期以降に流入する姫島産は、その瀬戸内沿岸への広がりとも整合する。⁽¹¹⁾

こうした傾向は、島根県を中心とする隠岐産黒曜石の利用状況とも調和している。島根県立古代出雲歴史博物館が平成30年に開催した企画展「隠岐の黒曜石」では、縄文時代早期末~中期の島根県県内の黒曜石流通状況を「隠岐の黒曜石狂時代」と表現するほど山陰中央部に隠岐産黒曜石がもたらされている。しかしながら、縄文後期~晩期には黒曜石利用圏が島根半島東部に縮小している (12)。

旧石器時代に関しては、稲田孝司が恩原遺跡の発掘調査成果をもとに、黒曜石製石器や湧別技法の石器群の分析などをとおして、中国山地東部の集団移動について、AT上位のナイフ形石器文化期(S文化層)の回帰遊動と細石刃文化期(M文化層)の植民という行動原理で説明した⁽¹³⁾。

中国山地東端に位置する七日市遺跡では主に在地産のチャートを使用しながら、淡路(岩屋)や二上山のサヌカイトも利用している。また、今年発掘調査が行われた夜久野高原の稚児野遺跡(京都府福知山市)でも七日市遺跡と類似するチャートを素材とした石器や二上山産サヌカイト、隠岐産黒曜石の石器が発見され⁽¹⁴⁾、氷上低地を中心に南北方向の回帰遊動が想定される。両遺跡ともAT下位に属し、黒曜石製石器の出土量はわずかで、恩原遺跡で想定されている原産地での直接入手は考えにくいが、回帰遊動の過程で岡山県側の集団との遭遇・接触により黒曜石を手に入れたと考えておきたい。

縄文時代に関しては、ほとんどの遺跡は石鏃などの小型製品あるいは剥片、石片が数点出土するに過ぎないが、但馬では堂ノ上遺跡や鉢伏高原遺跡、杉ヶ沢遺跡のように、豊富な出土量から原石(石核)からの石器製作が想定される遺跡が存在する。

上峯は縄文時代の石器の変遷を様相 $1 \sim 10$ に分け、石鏃を中心とした石器の特徴をふまえた時期比定が可能なことを示し、また、石器表面の微細なキズの観察からその石器の来歴を推定する方法を提示した (5) 。加都遺跡 (55) の石鏃は平坦な基部の中央が深く丸く抉られた「鍬形鏃」であり、早期中葉~後葉の様相 5 に比定できるであろうし、数10点出土している本位田遺跡 $(60\cdot 61)$ の剥片に移動に伴うようなキズが認められないなら、遺跡内での石器製作が想定できるであろう。こうした地道な調査を積み重ねることが、「石材が原産地を離れて移動する意味が読み解ける」ことにつながるであろう。

謝辞

本稿を執筆するにあたり以下の諸氏からご協力、ご教示いただきました。記して感謝の意を表します。 稲原昭嘉、上田健太郎、大下明、坂口弘貢、竹国よしみ、藤木透、山口卓也、山根実生子、山本誠

【註】

- (1) 文献 7 (2) 文献27·59·66 (3) 文献72·73
- (4) 中四国縄文研究会ほか 2009 『環瀬戸内地域の打製石器石材利用研究発表資料集』
- (5) 文献 8 (6) 註(4) に同じ。 (7) 文献72

- (8) 兵庫県教育委員会 1976『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(佐用編)
- (9) 藤木透氏のご教示による。
- (10) 文献59

- (11) 註(4) に同じ。
- (12) 島根県立古代出雲歴史博物館 2018『企画展 隠岐の黒曜石』
- (13) 稲田孝司 1996「恩原2遺跡発掘調査の成果」 『恩原2遺跡』 稲田孝司編 恩原遺跡発掘調査団
- (14) 黒坪一樹氏のご教示による。
- (15) 文献 8

【対献】

- 1 秋枝 芳 1992「26 辻井遺跡」『兵庫県史 考古資料編』 p. p. 133-134
- 2 芦屋市史編集専門委員 1971『新修芦屋市史 本編』
- 3 家島町教育委員会·岡山理科大学人類学研究室 2006『大山神社遺跡』
- 4 石野博信編著 1978『縄文時代の兵庫』
- 5 稲原昭嘉 2009「7. 播磨地域出土の黒曜石製石器」『明石の狩人-明石原人から縄文人へ-』発掘された明石の歴 史展実行委員会 p. p. 33・34
- 6 今里幾次 1971『姫路市辻井遺跡 その調査記録 』
- 7 今里幾次 1953「播磨における黒曜石石器および石材の分布」『播磨郷土文化』第八号 播磨郷土文化協會 p.p.1-11 (今里幾次 1980『播磨考古学研究』 今里幾次論文集刊行会 所収)
- 8 上峯篤史 2018『縄文石器 その視角と方法』京都大学学術出版会
- 9 大屋町史編集委員会編 2008『大屋町史 史料編』
- 10 香住町教育委員会 1980『香住町誌 資料編』(2)
- 11 鎌木義昌 1962 『家島群島総合学術調査報告書』神戸新聞社
- 12 加美町教育委員会 1997『市原・寺ノ下遺跡』加美町文化財報告1
- 13 久保勝正 2009 「近畿地方における縄文時代の打製石器石材 黒曜石・下呂石を中心として 」 『環瀬戸内地域の打製石器石材利用研究発表資料集』 関西縄文文化研究会・中四国縄文研究会・九州縄文研究会 p. p. 305 322
- 14 香寺町教育委員会 1994『香寺-香寺町埋蔵文化財調査15年の記録-』香寺町文化財調査報告Ⅱ
- 15 神戸新聞社学芸部 兵庫探検歴史風土篇取材班 1975 『兵庫探検 歴史風土篇』神戸新聞社
- 16 佐藤良二 1980「志方町・加西市および周辺の旧石器」『旧石器考古学』21 旧石器文化談話会 p.p. 93-126
- 17 佐藤良二 1981「播磨中部丘陵周辺の旧石器」『旧石器考古学』22 旧石器文化談話会 p. p. 59-72
- 18 志方町教育委員会 1974 『古代の志方(先土器時代-弥生時代)』志方町遺跡調査報告その1
- 19 新宮町教育委員会 2005『新宮宮内遺跡』新宮町文化財調査報告30
- 20 関宮町教育委員会 1985 『鳥ケタワ遺跡確認調査報告書』 関宮町埋蔵文化財調査報告書 (3)
- 21 関宮町教育委員会 1990『小路頃オノ木遺跡発掘調査報告書』関宮町埋蔵文化財調査報告書(4)
- 22 関宮町教育委員会 1999『鉢伏高原遺跡』関宮町埋蔵文化財調査報告7
- 23 太子町史編集専門委員会編 1996『太子町史』第一巻
- 24 多可町教育委員会 2006『曽我井·野入遺跡Ⅱ』多可町文化財報告1
- 25 多可町教育委員会 2006 『安坂・津ぶら遺跡 安坂・門田遺跡Ⅱ』多可町文化財報告17
- 26 高松龍暉 1992『ミノフ遺跡報告書』
- 27 高松龍暉 1978 「考古学から見た関宮町」『関宮町史資料集』(一) p. p. 9-65 関宮町町史編集委員会編
- 28 高松龍暉・山口卓也 1991「兵庫県畑ヶ平高原採集の石器群」『旧石器考古学』43 旧石器文化談話会 p. p. 79-91
- 29 竹野町教育委員会 1989『堂ノ上遺跡確認調査報告書』竹野町文化財報告書第5集
- 30 竹野町教育委員会 1990『小森岡遺跡』
- 31 但馬考古学研究会 1983『但馬古代史の謎を探る』
- 32 千種町史編集員会編 1983『千種町史』
- 33 千葉豊 2010「第2章加西の旧石器・縄文遺跡」『加西市史第7巻史料編』1考古 加西市史編さん委員会編 p.p.11-49
- 34 豊岡市教育委員会·宮井条里制遺跡発掘調査団 1977 『宮井条里制遺跡』豊岡市文化財調査報告書第7集
- 35 直良信夫著・春成秀爾編 1989『大歳山遺跡の研究』

- 36 中村剛彰 2006「本郷A遺跡」『平成16年度埋蔵文化財調査年報』佐用郡文化財報告書12 佐用町教育委員会 p.p.4-6
- 37 波賀町教育委員会 1984『皆木神田遺跡』波賀町文化財調査報告書1
- 38 発掘された明石の歴史展実行委員会 2009 『明石の狩人 明石原人から縄文人へ 』
- 39 春成秀爾 2019「明石市金ヶ崎遺跡の縄文初期石器」『明石の歴史』第2号 p.p.9-31
- 40 春成秀爾 2020「神戸市大歳山遺跡の縄文土器と石器」『明石の歴史』第3号 p.p.11-44
- 41 兵庫県教育委員会 1983『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第16冊
- 42 兵庫県教育委員会 1983『半坂峠古墳群 辻遺跡』兵庫県文化財調査報告第18冊
- 43 兵庫県教育委員会 1990『七日市遺跡(Ⅰ)旧石器時代の調香』兵庫県文化財調査報告第72-1冊
- 44 兵庫県教育委員会 1991『杉ヶ沢遺跡』兵庫県文化財調査報告第95冊
- 45 兵庫県教育委員会 1991 『長尾·沖田遺跡(I)』 兵庫県文化財調査報告第100冊
- 46 兵庫県教育委員会 1998『山宮遺跡』兵庫県文化財調査報告第172冊
- 47 兵庫県教育委員会 2004『七日市遺跡(Ⅲ)旧石器時代の調査』兵庫県文化財調査報告第272冊
- 48 兵庫県教育委員会 2005『加都遺跡 I』 兵庫県文化財調査報告第285冊
- 49 兵庫県教育委員会 2006 『板波町遺跡』 兵庫県文化財調査報告第294冊
- 50 兵庫県教育委員会 2009『東南遺跡』兵庫県文化財調査報告第362冊
- 51 兵庫県教育委員会 2011『吉田住吉山遺跡群』兵庫県文化財調査報告第409冊
- 52 兵庫県教育委員会 2013 『三釈迦山北麓遺跡群』 兵庫県文化財調査報告第453冊
- 53 兵庫県町村会 1952『お国自慢』
- 54 藤木透·中村剛彰 1998「本位田高田遺跡」『平成8年度埋蔵文化財調査年報』佐用郡文化財報告書1 佐用郡教育委員会 p. p. 1-7
- 55 藤木透 2005「中土居三山遺跡」『平成 5 年度埋蔵文化財調査年報』佐用郡文化財報告書11 佐用郡教育委員会 p.p.21-22
- 56 藤木透 2009「永谷B遺跡」『平成元年度埋蔵文化財調査年報』佐用郡文化財報告書20 佐用群教育委員会 p.p.6-9
- 57 藤木透 2013「本位田遺跡」『昭和61年度埋蔵文化財調査年報』佐用郡文化財報告書27 佐用郡教育委員会 p.p. 11-14
- 58 藤原清尚 1978「加古川市の石器 1 山之上遺跡の採集資料 」『古代学研究』第88号 p. p. 15 23
- 59 松本正信 1978「第2章考古学からみた龍野」『龍野市史第一巻』 龍野市史編纂専門委員会編 p. p. 129 267
- 60 松本正信・安川豊史・春成秀爾 1982「播磨南部採集の旧石器」『旧石器考古学』24 p. p. 101-130
- 61 真野修・稲原昭嘉 1988「兵庫県高砂市曽根町馬坂採集の石器」『旧石器考古学』37 p. p. 102-104
- 62 美方町教育委員会 1989『上ノ山遺跡』
- 63 溝上くみ 2003「兵庫県の縄文時代前期・中期石器についての概要」『縄文時代の石器Ⅱ-関西の縄文前期・中期』 関西縄文文化研究会 p. p. 135-168
- 64 溝上くみ 2004「兵庫県の縄文時代後期・晩期石器についての概要」『縄文時代の石器 II 関西の縄文後期・晩期』 関西縄文文化研究会 p.p. 159-224
- 65 溝上くみ・間壁葭子 2002「神鍋遺跡の尖頭器とその周辺の石器 和田長治氏採集資料より 」『神女大史学』 第19 号 神戸女子大学 p. p. 66 111
- 66 藤井祐介 1976「第1章旧石器·縄文時代」『新修芦屋市史 資料篇1』 芦屋市史編集委員代表武藤誠編 p.p.9-80
- 67 村岡町編 1980『村岡町誌 通史編上巻』
- 68 村川行弘編 1996『兵庫県の考古学』吉川弘文館
- 69 養父町史編集委員会編 1990『養父町史』第一巻 (通史上巻)
- 70 山崎町史編集委員会編 1977 『山崎町史』
- 71 八鹿町教育委員会 1988『八木西宮遺跡・大山田遺跡』兵庫県八鹿町文化財調査報告書第7集
- 72 藁科哲男・東村武信 1983「石器原材の産地分析」『考古学と自然科学』第16号 日本文化財科学会 p. p. 59 89
- 73 藁科哲男・東村武信 1988「石器原材の産地分析」『鎌木義昌先生古稀記念論集 考古学と関連化学』 p. p. 447-491

【集成表】

No.	地域	遺跡名*1	所在地**2	遺物名・点数**3	時 代	文献
1	但馬	陣ノ岸縄文遺跡	新温泉町越坂陣ノ岸	石鏃	縄文早期	4
2	但馬	畑ヶ平旧石器遺跡	新温泉町岸田、畑ヶ平	台形様石器3	旧石器	28
3	但馬	岡畑遺跡	香美町香住区森岡畑	細片	縄文後晩期	10
4	但馬	月岡下古墳	香美町香住区香住唐栗	石鏃	縄文前中期	63
5	但馬	ミノフ遺跡	香美町香住区隼人ミノフ	石鏃 1	縄文	26
6	但馬	柤岡遺跡	香美町村岡区柤岡茶山	石鏃	縄文早前期	4
7	但馬	上ノ山遺跡	香美町香住区小代区広井	剥片	縄文早期	8 · 62
8	但馬	(兎和野遺跡)	香美町村岡区	石鏃	縄文前期	70
9	但馬	(和知大沢遺跡)	香美町村岡区	黒曜石	縄文	13
10	但馬	タツケ平遺跡	香美町村岡区福岡道別れ	石鏃 4	縄文早期~後期	53 · 67
11	但馬	小森岡遺跡	豊岡市竹野町松本	削器 1	縄文後期前半	30
12	但馬	宮井・栃江条里遺跡	豊岡市栃江、宮井	剥片 1	縄文後期?	34
13	但馬	辻遺跡	豊岡市辻字前田	楔形石器 1	縄文後期前葉	42
14	但馬	堂ノ上遺跡	豊岡市竹野町椒	石鏃6、加工痕のある石片 石核、剥片、チップ	縄文早期	29
15	但馬	山宮遺跡	豊岡市日高町山宮	剥片	縄文早期	46
16	但馬	神鍋遺跡	豊岡市日高町神鍋	(石鏃40余、原石2) 尖頭器1、石鏃63、異形石器1、丸のみ刃形石器2、 ドリル状1、ノッチ1	縄文前期主体 [草創期·中後期含]	(31) 65
17	但馬	鉢伏高原遺跡第1地点	養父市丹戸字西横角	石鏃1、剥片25 (二次加工のある剥片1、 剥片63)		27 (8)
				石鏃2、楔形石器1	縄文早前期	22
18	但馬	鉢伏高原遺跡第2地点	養父市丹戸字西横角	剥片 1	縄文	8
19	但馬	鉢伏高原遺跡第7地点	養父市丹戸字越中	剥片 1	縄文前期	27
				石鏃 1	縄文前期	22
20	但馬	鉢伏高原遺跡第8地点	養父市丹戸字越中	剥片 1 (剥片 2)	縄文	27 (8)
21	 但馬	別宮家野遺跡	- 養父市別宮字家野	剥片 1	縄文	8
	1	別宮家野遺跡南		石鏃 1	縄文	27
22	但馬	小路頃才ノ木遺跡	養父市小路頃	石鏃2、黒曜石8 (石鏃2、楔形石器1、二次 加工のある剥片1、剥片8)	縄文中後期	21 (8)
23	但馬	吉井円光寺林遺跡	養父市吉井字奥山	剥片 3	縄文早前期	27
24	但馬	吉井天井遺跡	養父市吉井字下吉井	剥片30 (二次加工のある剥片1、 剥片24)	縄文	27 (8)
25	但馬	吉井鐘鋳場遺跡	養父市吉井字鐘鋳場	剥片 1	縄文	8
26	但馬	関宮西野遺跡	養父市関宮字西野	剥片 5	縄文前期	27
27	但馬	鳥ヶ夕ワ遺跡	養父市関宮字鳥ヶタワ	破片 2	縄文早期	20
28	但馬	尾崎丈ヶ谷遺跡	養父市尾崎字上山	石鏃1、剥片3	縄文早前期	27
29	但馬	尾崎見山遺跡	養父市尾崎見山	剥片 3	縄文	27
30	但馬	(尾崎見崎新田遺跡)	養父市	剥片 2	縄文	8
31	但馬	三宅西谷遺跡	養父市三宅字西谷	ナイフ形石器 1	旧石器	69
32	但馬	三宅早詰遺跡	養父市三宅字早詰	剥片 5	縄文早期	27
33	但馬	三宅中島遺跡	養父市三宅字中島	剥片 2	縄文	8
34	但馬	三宅大熊遺跡	養父市三宅字大熊	二次加工のある剥片?1	縄文	8
35	但馬	(三宅田尻遺跡)	養父市	剥片 1	縄文	8
36		八木西宮遺跡	養父市八鹿町八木	剥片 5	縄文早期~中期	27
	但馬			石刃状剥片 1	旧石器	71
37	但馬	杉ヶ沢遺跡第1地点	養父市轟字轟野	石鏃1、剥片30 (石鏃1、二次加工のある 剥片2、石核2、剥片56)	縄文早期~中期	27 (8)

No.	地域	遺跡名*1	所在地**2	遺物名·点数*3	時 代	文献
38	但馬	杉ヶ沢遺跡第2地点	養父市轟字轟野	石鏃1、剥片3 (剥片5)	縄文早期~中期	27 (8)
39	但馬	杉ヶ沢遺跡第5地点	養父市轟字轟野	剥片 1	縄文	8
40	但馬	杉ヶ沢遺跡第7地点	養父市轟字轟野	剥片 5	縄文	8
41	但馬	杉ヶ沢遺跡第8地点	養父市轟字轟野	剥片 3 (石核 1 、剥片12)	縄文早期~中期	27 (8)
42	但馬	杉ヶ沢遺跡第10地点	養父市轟字轟野	石鏃 1 · 剥片37	縄文早期~後期	27
43	但馬	杉ヶ沢遺跡第11地点	養父市轟字轟野	剥片 1	縄文	8
	但馬	杉ヶ沢遺跡第13地点	養父市轟字轟野	石鏃 2	縄文	27
44				石核 1	縄文早期~中期	44
				剥片 4	縄文	8
45	但馬	杉ヶ沢遺跡第17地点	養父市大屋町筏	石鏃 1	縄文早期・中期	27
46	但馬	杉ヶ沢遺跡第18地点	養父市大屋町筏	剥片 1	縄文早期~中期	27
47	但馬	杉ヶ沢遺跡第19地点	養父市轟字轟野	剥片 1	縄文前期	27
40				剥片 4		27
48	但馬	杉ヶ沢遺跡第20地点	養父市轟字轟野	(剥片7)	縄文早期	(8)
49	但馬	杉ヶ沢遺跡第25地点	養父市轟字轟野	剥片 1 (剥片 1 、石核 1)	縄文	27 (8)
50	但馬	杉ヶ沢遺跡第29地点	養父市大屋町筏	石鏃 1、剥片20 (剥片29)	縄文早期~中期	27 · 44 (8)
51	但馬	杉ヶ沢遺跡第30地点	養父市大屋町筏	剥片 1	縄文	8
52	但馬	轟東遺跡	養父市轟	剥片 1	縄文中期?	27
53	但馬	熊野遺跡	養父市三谷字熊野	黒曜石片10	縄文早期~後期	68** 4
54	但馬	原山田遺跡	養父市大屋町加保	剥片 4	縄文早期	9*4
55	但馬	加都遺跡	朝来市和田山町加都、市御堂	石鏃 1	(縄文前期・後期)	48
56	播磨	(三室口遺跡) (三室遺跡)	宍粟市千種町河内	黒曜石片 剥片	縄文早期後半	32 · 59
57	播磨	皆木神田遺跡	宍粟市波賀町皆木	剥片 5	縄文前期	37
58	播磨	名畑遺跡	宍粟市波賀町上野名畑	有舌尖頭器 1	縄文草創期	70
59	播磨	中土居三山遺跡	佐用町下石井	剥片	_	55** 5
20	Agricular and an annual and an annual an annual an annual an annual an		44 FE FE - 44 FE	石鏃1、剥片11	縄文早期・後晩期	57* 5
60	播磨	本位田遺跡	佐用町本位田	黒曜石 1	弥生中期	72
61	播磨	本位田高田遺跡	佐用町本位田	石鏃1、剥片34点	縄文早期?	54**5
60	445 tala:	ED ADAR	4- mm = 0	ナイフ形石器1、剥片	旧石器	45
62	播磨	長尾・沖田遺跡	佐用町長尾	剥片 1	_	* 5
63	播磨	永谷製鉄遺跡(B地区)	佐用町長尾	剥片 1	_	56* 5
64	播磨	本郷A遺跡	佐用町本郷	剥片 1	縄文	36** 5
65	播磨	安川・如来田遺跡	佐用町安川	石片	縄文後晩期	64
66	播磨	(新宿遺跡)	佐用町 (三日月町)	剥片	縄文?	59
67	播磨	新宮宮内遺跡	たつの市新宮町宮内	石核1、剥片2	縄文後晩期	19
68	播磨	皿池遺跡	たつの市神岡町大住寺大鳴皿池	剥片 3	旧石器・縄文	59
69	播磨	中臣山遺跡	たつの市揖保町中臣宮の下	石鏃	縄文	59
70	播磨	(小丸山遺跡)	たつの市	剥片	縄文	70
71	播磨	東南遺跡	太子町鵤	石鏃 1 加工痕剥片 1、剥片 1	縄文後期縄文	23 50
72	播磨	大山神社遺跡		ナイフ形石器1	旧石器	3
73	播磨	太島東部遺跡	姫路市家嶋町太島	井島 I 型石器 1	旧石器	11
13		之一	姫路市辻井1~7丁目	<u> </u>	個文中期~晚期	1
74				数点の黒曜石	(170 × 179)	6
14				微細な断片1	縄文中後期	7
75	播磨	手柄山北丘遺跡		ナイフ形石器カ1	旧石器	59
76	播磨	溝口平尻遺跡	<u>佐路市西延</u> 木 佐路市香寺町溝口	石鏃1、小片2	縄文前期	14
77	播磨	福本遺跡	神河町福本	石鏃	縄文	59
78	播磨	市原寺ノ下遺跡	多可町加美区市原	石鏃1、剥片1	縄文晩期	12
10	用岩	111/原寸/ 上退跡	夕り門加大臣印席	1日 秋日 日	作人吃物	12

No.	地域	遺跡名*1	所在地**2	遺物名・点数*3	時 代	文献
79	播磨	安坂・門田遺跡	多可町中区安坂	剥片石器 1	_	25
80	播磨	曽我井・野入遺跡	多可町中区曽我井	石鏃片1、RF1	縄文前期	24
81	播磨	板波町遺跡	西脇市板波町	剥片 1	縄文後期	49
82	播磨	北条逆池遺跡	加西市玉野町西ノ谷	剥片 1	_	5 · 59
83	播磨	玉丘長倉池散布地	加西市玉丘町長倉	黒曜石	縄文	33
84	播磨	大村皿新池・中ノ池散布地	加西市大村町京十万	黒曜石	縄文	33
85	播磨	(ごさん谷池遺跡)	加西市田原町	剥片 1	旧石器	17
86	播磨	塚谷池散布地	加西市田原町塚谷	黒曜石	縄文	33
	les etc	I may here to	L. L. D. Labor L. Lamer Inc.	石鏃	縄文	59
87 播原	播磨	畑遺跡	加古川市志方町畑	剥片	縄文	18
88	播磨	(札馬新池遺跡)	加古川市志方町大沢	剥片	縄文	59
89	播磨	成井小池遺跡	加古川市志方町成井	削器1	旧石器	16
90	播磨	(岡遺跡)	加古川市志方町	石鏃、剥片	縄文	59
91	播磨	(岡山遺跡)	加古川市志方町	フレイク	旧石器	18
92	播磨	宮前大池遺跡(宮ノ前遺跡)	加古川市西神吉町宮前	剥片	旧石器・縄文	59
93	播磨	西山遺跡	加古川市平荘町西山	石鏃、剥片	旧石器・縄文	59
94	播磨	(平荘逆池遺跡)	加古川市平荘町	剥片	旧石器・縄文	59
95	播磨	城山遺跡	加古川市八幡町	剥片 1	_	5
96	播磨	南大塚	加古川市加古川町大野	細石刃核 (スキー状スポール) 1	旧石器	6
97	播磨	日岡山遺跡	加古川市加古川町大野	細石刃核 1	旧石器	60
98	播磨	山之上遺跡	加古川市平岡町山之上	刃器1、剥片	旧石器	58 · 59
99	播磨	_	高砂市曽根町馬坂	剥片 1	_	61
100	播磨	吉田住吉山遺跡	三木市志染町吉田	微細な剥離痕のある剥片 1	縄文	51
101	播磨	金ヶ崎遺跡 (岡畑遺跡)	明石市魚住町金ヶ崎	石核 1	縄文草創期	4 · 39
102	播磨	口北野遺跡	明石市大久保町	石鏃1	縄文	38
103	播磨	金棒池遺跡	神戸市西区神出町古神	石鏃 2、細石刃26、細石刃核 1、剥片17	旧石器・縄文	38
104	播磨	(吉田2号墳)	神戸市西区	石鏃1	縄文	5
	播磨	大歳山遺跡	神戸市垂水区西舞子	石鏃	縄文前期・晩期	59
105				破片 1	縄文	35
				剥片 1	縄文	40
_		小部北ノ谷遺跡	神戸市北区山田町小部		縄文中期	67
		宇治川南遺跡	神戸市中央区楠町	剥片 3	縄文晩期	13 · 72
		朝日ヶ丘遺跡	芦屋市朝日ヶ丘町	石鏃	縄文早前期	2
-	摂津	(岩ヶ平地点)	芦屋市岩園町	石鏃1	縄文	65
_	摂津	(岩ヶ平小学校北地点)	芦屋市岩園町	石鏃1	縄文	65
_	摂津	(笠ヶ塚地点)	芦屋市笠ヶ塚	石匙1	縄文	65
	摂津	(笠ヶ塚南地点)	芦屋市笠ヶ塚	石鏃1、石槍1	縄文	65
_	摂津	(五箇山遺跡)	西宮市	石鏃	縄文	15
$\overline{}$	摂津	奈カリ与遺跡	三田市すずかけ台	剥片 2	縄文	41
_	摂津	香合新田遺跡	宝塚市香合新田	精円礫 ^{*6}	縄文	13
116	丹波	桂ヶ谷遺跡	丹波篠山市大山下川向	使用痕ある剥片 1	(弥生中期)	52
117	丹波	七日市遺跡	丹波市春日町七日市	剥片 1	旧石器	43
				石核1、剥片4	旧石器	47
118		南畑遺跡(八木入田遺跡)	南あわじ市八木養宜中	剥片 2	縄文前期	4
119	淡路	(福良備前遺跡)	南あわじ市	石鏃	-	15

^{※1} 遺跡名は兵庫県立考古博物館ホームページで公開されている令和2年度時点の『兵庫県遺跡地図』に掲載の遺跡名とし、 文献と多少の違いがある場合は、文字を小さくした。また、『兵庫県遺跡地図』に該当する遺跡名の無い場合は()を 付けた。

- ※2 所在地も『兵庫県遺跡分布地図』に掲載の地名とした。
- ※3 遺物名は原則として掲載文献の名称とした。

- ※4 山根実生子氏のご教示による。※5 藤木透氏のご教示による。※6 大下明氏によるとコークスの可能性もあるとのこと。